

長野野

起業 @信州

ペットフード販売の信州わんにゃん食工房(小諸市)は、霜害などで価格が下がった野菜や果物を使う信州産ブランドの商品を展開している。生産は障害者が働く上田市の社会福祉法人に委託し、社会貢献を意識して事業を広げている。

「規格外品の野菜でもおいしいのに、処分されるのはもったいない」。重岡克哉社長が県の臨時職員として働いていた時、農業関係

ペットフードに地元産規格外野菜

信州わんにゃん食工房社長 重岡 克哉氏



信州わんにゃん食工房の重岡社長

▽所在地 小諸市御幸町1の8の20 (☎0267・31・6322)
 ▽代表者略歴 しげおか・かつや 1987年麻布大学獣医学部卒。長野県中小企業振興センター職員などを経て2014年信州わんにゃん食工房設立。東京都柏江市出身。55歳。
 ▽事業所概要 信州産野菜を使ったペットフードの販売

飼い主の国産志向に的

者と仕事をして感じた思いが起業につながった。規格外品は形や傷が理由で低価格で取引されるが、品質や味は問題ない。いい活用方法はないかと考える

うち「信州産のおいしい農産物を家族である愛犬に」と考えついた。加工品は隙間産業。消費者の認知度は向上が重要になる。ペットへの与え方を指南するた

国産のペットフード補助食品は種類が少なく、いわば隙間産業。消費者の認知度は向上が重要になる。ペットへの与え方を指南するた

「まずは気軽に買っても

（北川開）

ている愛犬がいる。人よりも短く、老いていく愛犬を見て「安全でおいしいものを食べさせたい」という思いが募ったという。

現在販売するのはドライレタス、ドライリンゴなど8種類。通常のエサに混ぜておいしくする「ペットフード補助食品」として売られている。商品開発には愛犬も味見などで協力している。

例え「キャラいたい」（重岡社長とベツのこはん）。ドッグフードに豆乳でふやかしたドライキャベツやゆで卵、ミニトマトなどを添える。ペットの健康を維持したという飼い主の意識が高まる中、消費者は国産志向を強めている。同社はすべて信州産農産物を使い、人も食べられる基準で生産している。乾燥野菜はペットの肥満予防につながり、ドライリンゴは夏ばて対策になるという。

重岡社長は「創業には行政との連携と地元からの評価が重要」といい、小諸市と連携した期間限定の「鹿肉ジャーキー」など定期的に自治体などとコラボ商品を開発している。生産は乾燥からパッケージングまで障害者が働く上田市の社会福祉法人に委託する。今年度は500万円の売り上げを目標し、黒字化する見込みだ。

長野支局 0266-12321-2111
 松本支局 02663-3363-3007